

平成29年度 西宮市総合防災訓練の実施について

西宮市は、11月1日（水）に南海トラフ地震を想定した「平成29年度 西宮市総合防災訓練」を実施しました。

午前の部は、市内全域で、地震発生時に自分の身を守るための安全確保行動をとる「シェイクアウト訓練」を全市域で実施し、また、津波浸水想定区域内の学校園や事業所等では津波避難訓練を実施するなどして、一人ひとりがいのちを守るための安全行動をとるとともに、津波浸水想定区域内の住民の皆様には、自らの避難方法を確認して頂き、防災意識の高揚と地域防災力の向上を図りました。

午後の部は、アサヒビール西宮工場跡地を主会場とし、人命救助や土砂災害、道路の通行障害の対応訓練や、ライフラインの復旧訓練のほか、避難所運営で想定される物資の受入や給水、災害用トイレの設置訓練を市職員、防災関係機関に加え住民団体と共同で行い、日頃の訓練成果を確認し、互いの連携強化を行いました。

また、多くの企業等が展示ブースにて、非常食の試食や防災グッズ等の展示、また普段見ることができない災害時に活躍する車両展示等を行い、見学者で賑わっていました。

午前の部 津波一斉避難訓練

- 参加者 市民、学校園、事業所
- 参加人数 約 55,000 名



市内全ての防災スピーカー、緊急告知ラジオ、にしのみや防災ネット（登録制配信メール）から発信された地震情報を合図に、その場で1分間、シェイクアウト訓練（地震から身を守るための行動）を実施しました。

また、消防団の広報車による巡回や防潮門扉の閉鎖訓練もあわせて行いました。

午後の部 実動訓練

- 参加機関

陸上自衛隊第3師団第36普通科連隊／神戸海上保安部西宮海上保安署／阪神南
県民センター／震災・学校支援チーム（EARTH）／西宮警察署／甲子園警
察署／西宮市消防団／西宮市機能別消防団／社会福祉法人西宮市社会福祉協議
会／公益財団法人西宮市国際交流協会／一般社団法人西宮市医師会／一般社団
法人西宮市薬剤師会／大阪ガス株式会社／西日本電信電話株式会社／西日本旅
客鉄道株式会社／阪急電鉄株式会社／阪神電気鉄道株式会社／一般社団法人西
宮建設協会／日本災害救援ボランティアネットワーク／阪神水道企業団／特定
非営利活動法人兵庫県防災士会／認定NPO法人日本レスキュー協会／生活協
同組合コープこうべ／株式会社GEOソリューションズ／5日で5000枚の約束。
プロジェクト実行委員会／森永乳業株式会社／JFEスチール株式会社／西宮
市聴力言語障害者協会ろうあ部会・西宮手話サークル連絡会／自主防災会／津
門保育所／西宮市

- 参加人数 約800名

主な訓練

■ 指揮統制本部開設訓練

防災関係機関である自衛隊、警察、海上保安署、消防と市が連携して、災害現場への出動隊の派遣調整などを行いました。



■ 人命救助訓練

3班(自主防災会・防災士会、消防団、市の人命救助隊)に分かれ、各倒壊家屋前に設置されている障害物を撤去後、閉じ込められている負傷者の救出及びガレキの下敷きになっている負傷者を救出しました。



■ 避難広報情報伝達訓練、避難訓練

消防団の車両による大津波警報の広報後、鉄道事業者（JR、阪急、阪神）の職員が乗客の避難誘導及び自力での避難が困難な方の搬送を行いました。

また、会場外でも、津門保育所の園児が警察の誘導により避難行動をとりました。



■ 避難所開設・運営訓練

避難所では、避難者名簿の作成や障害をお持ちなどの理由により他の避難者と同じ場所での避難生活が困難な方を福祉避難室へ案内する訓練が行われました。また、外国人避難者には国際交流協会から通訳者を派遣するといった対応が行われました。



■ 災害用トイレ設置訓練

今回の訓練では福祉対応型トイレを設置しました。市職員の指導の下、避難者役の自主防災組織や学校支援チームの方々などに協力してもらい、組立を行いました。



■ 物資搬送・受入訓練

大規模災害時には、小中学校等に設置している備蓄倉庫から、備蓄品を避難所へ搬送します。また、市の備蓄だけでは対応できない物資については、災害時応援協定を締結している業者へ対応依頼を行います。

今回は、生活協同組合コープこうべから飲料水が、5日で5000枚の約束。プロジェクト実行委員会から畳が避難所へ搬送されました。



■ 応急給水訓練

西宮市では、災害による断水といった万一の事態に備え、給水車などによる応急給水体制を整えています。また訓練に参加した阪神水道企業団を含む県内の水道事業者とは、「兵庫県水道災害相互応援に関する協定」を締結しており、大規模災害時には連携し、応急給水作業や応急復旧工事を行います。



■ 避難所巡回訓練

避難所からの要請を受けた保健師が避難所の現況調査と避難者の健康調査を行いました。また、避難者の症状等により、救護所への搬送指示も行われました。

これにより、避難所の衛生状態や感染症の発生動向に対する対策にも繋がります。



■ 救護所開設・運営訓練

保健師による避難所巡回によって、救護所での処置が必要と判断された避難者などに対して、派遣された医師や看護師による医療活動や薬剤師による調剤等の訓練が行われました。



■ バケツリレー訓練

避難所のトイレが断水となり使用不可能となったという状況を想定し、バケツリレーにより、トイレの水を確保する訓練を実施しました。

参加者は2チームに分かれ、どちらが先にゴール地点のバケツを満杯にできるかを競いました。



■ 炊き出し訓練

電気、都市ガス、水道が使用できない災害時の食糧供給を自主防災会の方が協力して行いました。



■ 災害ボランティアセンター開設・運用訓練、防災士受入訓練

市、西宮市社会福祉協議会、日本災害救援ボランティアネットワークが災害ボランティア調整会議によりお互いの役割分担を確認し、ボランティア受け入れのための事務調整を行った後、災害ボランティアセンターを開設しました。

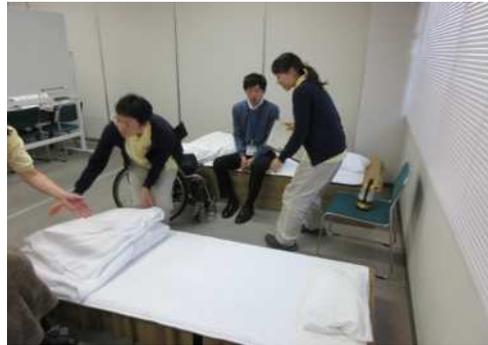
災害ボランティアセンターでは、ボランティアの受付、ボランティアのマッチングから派遣までの一連の作業を行いました。

また、防災士会による、全国から支援にきた防災士の受け入れ訓練も行われました。



■ 福祉避難所開設訓練

別会場であるこども未来センターやすこやかケア西宮では福祉避難所の開設訓練を行いました。福祉避難所は、一般の指定避難所とは異なり、特別の配慮を必要とする避難者が安心して生活できる体制を整備した施設です。本訓練では、開設手順や避難者の対応を検証しました。



■ 土のう作成・設置訓練

市の人命救助隊と機能別消防団が地震により、避難所に至る道路が陥没しているため救援物資が搬送できないとの想定のもと、陥没した道路に土のうを積み立て、通行障害を解消する訓練を行いました。「迅速かつ安全に土のうを作成できているか」などを検証しました。



■ 道路啓開訓練

南海トラフ地震により、道路と橋との間に大きな段差が発生し、また沿道の家屋が倒壊し、道路を塞いだ状況を想定した訓練を行いました。橋梁の橋台部分に生じた段差を土のう等により応急復旧を行い、倒壊家屋やガレキ等で閉鎖された道路を重機などで、車両が通行可能な状態にしました。



■ 救出救助訓練

南海トラフ地震の発生に伴う津波により西宮市内の臨海地区が浸水し、津波避難ビルなどへ一次避難した市民の方々が津波襲来後も浸水区域に取り残され、助けを求めていることを想定し、消防局の警防隊、救助隊、また、消防団が協力して救助活動にあたる訓練を実施しました。



■ 土砂災害対応訓練

自衛隊や消防、災害時応援協定事業者による災害現場の対応訓練を行いました。土砂災害が発生し、民家や車両が巻き込まれ、行方不明者がいるという想定のもと、消防救助隊のGPSを活用したベーシックサーチや日本レスキュー協会によるドッグサーチを駆使して、要救助者を救出する訓練を行いました。

また、この訓練では、協力機関のドローンによる空撮状況が、災害対策本部にリアルタイムで配信され、迅速で正確な現場状況の確認を行いました。



■ ライフライン復旧訓練

地震の影響でライフラインが寸断されたことを想定し、NTT西日本グループと大阪ガス株式会社がそれぞれ復旧訓練を実施しました。

NTT西日本グループは、通信サービスの応急復旧措置として、避難所にポータブル衛星車を用いた特設公衆電話の設置を行いました。

また、大阪ガス株式会社は、橋梁ガス管が破断し、ガスが噴出しているため、避難広報や警戒区域の設定後、損傷したガス管の修理作業を行う訓練を実施しました。



■ 車両救出訓練

地震により交通事故が発生し、負傷者1名が閉じ込められているとの想定のもと、警察が車両に閉じ込められている負傷者を、切断器具を使用し救出、病院までの搬送を行いました。



■ トリアージ訓練

会場内のテントを西宮市立中央病院に見立て、歩いて来られたり、救急車で搬送された負傷者に対して、迅速かつ正確なトリアージ(負傷者の緊急度・重症度に基づいて、治療の優先順位を決定し、選別すること)を行いました。



■ 地震火災消火訓練

要救助者救出完了後の倒壊家屋から火災が発生、消火栓が使用不能な状況を想定し、自然水利を利用しての消火活動が行われました。

地域住民で結成された自主防災組織や消防団、地域の企業による西宮市消防協力隊が消火活動を行いました。また、糸井川の火災を想定し、災害時応援協定事業者である西宮建設協会のミキサー車が水量の不足している水槽へ水を供給しました。



また災害時の被災状況、避難所の設営・運営状況等のビデオ及びカメラ撮影も訓練の一環として行いました。

今回の訓練を通じて抽出された課題を整理し、西宮市の防災力向上に向け、引き続き取り組んでまいります。